

5章 トライデント潜水艦非武器化の実際

5.1 トライデント潜水艦、ファスレーン(Faslane)、クールポート(Coulport) についての背景説明

1970年代半ばから後半にかけて、英国政府は秘密裏でポラリス艦隊の交替を決定した。このことが英国製核弾頭を装備した米国製のトライデント・ミサイルを搭載する4隻の潜水艦を建造する決定につながった。こうして英国のトライデント潜水艦発射型核ミサイルプログラムは、設計、開発、配備にいたるまで米国政府に幫助されることになった。

米国はトライデント・ミサイル用の核弾頭を英国に直接提供するようなことこそしていないが、設計、開発及び製造に関する情報や材料と技術の提供といったすべてをディスカッショングループを通して行っている。すべての英国の核兵器はほとんど完全に米国の技術と支援に頼っている。英国政府のトライデント関連概算費用の約30%は米国内で使われている。

英国のトライデント・ミサイルは米国の中央ミサイル貯蔵庫からリースされていて、ミサイルの点検や補修は米国で実施される。

米国は以下のものも提供している。

- ・トライデント潜水艦の原子炉燃料である高濃縮ウラン
- ・トライデント用核弾頭の設計とテストの補助
- ・最初のトライデント潜水艦（英国軍艦 バンガード：HMS Vanguard）の16門のミサイル発射管と、残り3隻のトライデント潜水艦ミサイル発射管の装着に対する技術支援
- ・英国のトライデント・ミサイルの照準、通信、誘導システムと米国の人工衛星を利用したナビゲーションシステムの使用許可

潜水艦の加圧水型原子炉は点検なしで7年間運転できるように設計されている。この原子炉の原型炉は英国軍艦バルカン(HMS Vulcan)に装備されており、ドーンリー（Dounreay）のすぐ近くに配備されている。

トライデントは英国の核戦争能力を飛躍的に向上させた。以前のポラリス/シェバライン(Polaris/Chevaline)システムは、ミサイルに核弾頭をいくつ搭載しようとするか一つのミサイルで1標的しか攻撃できなかった。それに対してトライデントの核弾頭は独立した標的機能を持っている。

全長	491 フィート(149.7m)
船体直径	43.3 フィート(13.2m)
高さ	4階建
排水量	16000 トン (水中)
速度	25 ノット (水中)
動力炉	PWR2 加圧水型原子炉 1基
ギヤード蒸気タービン	/ 1軸
乗員	132人
装備	スピアフィッシュ(Spearfish)魚雷発射管 4門、トライデント II D-5 潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)16基、最大で 48(Mk-4/100 キロトン [kt])の個別誘導複数目標弾頭(MIRV)を搭載

全長	44.6 フィート(13.6m)
直径	83 インチ(2.11m)
発射重量	130000 ポンド(48490kg)
重量	130000 ポンド以上
段数	3段式+ポストブースト制御システム
射程	4000 海里(7408km)以上
誘導装置	発射前に潜水艦の位置を更新するナビスター全地球位置把握システム (NAVSTAR GPS)付恒星照準参照誘導
精度	円形公算誤差(CEP)400-500 フィート(121.9-152.4m)

	潜水艦数	核弾頭当りの威力 (kt)	潜水艦当りの核弾頭数	3隻の潜水艦の合計の最大核弾頭数	潜水艦当りの最大標的数	射程 (km)	精度 (m)
ポラリス	4	200	32	96	16	4700	900
トライデント	4	100	48	144	48	7400	120

トライデントに搭載されたすべての核弾頭は別々の標的を破壊できる。また、トライデントはより長い射程をもち、より正確で、標的をより短い時間で破壊できる。

英国の4隻のトライデント潜水艦はバンガード(HMS Vanguard) (最初のパトロール:1994年12月13日)、ヴィクトリアス(HMS Victorious) (最初のパトロール:1996年1月7日)、ヴィジラント(HMS Vigilant) (最初のパトロール:1997年)、ベンジャンス(HMS Vengeance)(最初のパトロール:2001年の初期に予定)である。

英国のトライデント潜水艦は、スコットランドのファスレーンにあるクライド(Clyde)潜水艦基地を母港にしている。ここで、パトロールが終わる度に定期的な整備を実施する。英国海軍武器本部 クールポート(RNAD Coulport)は核弾頭を管理している。通常144個の核弾頭が潜水艦に搭載されているが、それ以外に30~50の核弾頭がRNADクールポートに保管されている。クールポートでは、核弾頭を検査し基本的な整備作業を実施する。少数の核弾頭がそれぞれの潜水艦から取り出されクールポートのものと入れ替えられることが時々あり、その作業はクールポートで実施される。トライデント・ミサイルも取り外されることがあり、最大で16基のミサイルを貯蔵するための貯蔵庫が地上にある。しかし、通常、ミサイルはいつも潜水艦上にある。ミサイルは、米国ジョージア州のキングスベイにある米海軍基地で装填され、取り外される。クールポートは魚雷の貯蔵、装荷、取り出し港でもある。

英国のトライデント・ミサイルはキングスベイで保守点検される。英国のミサイルは米国のミサイルと一緒に番号付けられ、貯蔵され、英国の潜水艦に配備されるまで英国に割り当てられない。通常7年間ミサイルは潜水艦上にある。しかし、RNADクールポートにも緊急時のミサイル取り外し能力はある。ゴスポート(Gosport)にある海軍潜水艦博物館は訪問する価値がある場所である。トライデント潜水艦はないが、古い潜水艦が展示されていて、潜水艦がどんなものかわかる。それらは、電気系統や搭載兵器等に小規模の変更があるが、基本的な構造はすべて同じである。住所は、The Royal Sub Museum, Haslar Jetty Rd, Gosport, Hampshire, PO122AS



5.2 トライデント潜水艦を安全に非武器化する方法

一般常識を働かせ、よく考え、議論し、ロールプレイを行うことである。非武器化を行うために潜水艦や道路や鉄塔に特定の時間に集合することよりも、平和的で愛に満ちた責任ある行動をとることのほうが

大事であるということをおぼろげに忘れない。大事なのは意思と献身である。つまり、平和的に非武器化する意思と私たちの活動に参加し続ける献身が大事である。この完全な献身のために、警察当局は私たちを手荒く扱えない。当局が出来ることは、私たちをただ逮捕することだけだ。しかし逮捕されても非武器化行動を繰り返す私たちを止めさせるには刑務所に入れるしかない。平和的で責任ある行動であればあるほど、人々に参加してみたいという気持ちを起こ

させる。そして何百、何千もの人が参加すれば、廃絶への可能性が大きくなるのである。

当局がトライデント・プラウシュア運動の広がりをも止めるための最も簡単な方法は、私たちが暴力的でテロ活動を行うと世間に印象付けることである。だから、私たちの行動がその様に解釈されないように注意を払う必要がある。もちろん、私たちは不誠実な中傷とは戦わなければならないが、私たちの活動が誠実でオープンであればこの手の中傷は長くは続かないだろう。

5.2.1 一般的注意事項

緊急車両

基地内における救急車や消防車の通行妨害にならないように、障害物がすぐに取り除け、道路に掘った溝に橋を渡せるようにしておくこと。

レーザーワイヤー (蛇腹形鉄条網)

これはとても鋭く、思わぬ怪我をする。切断すると跳ね返ってくることがあるので、跳ね返りを考慮にいれ、空間的余裕を十分もって切断する必要がある。つないである所まで行って、そこに繋がっているすべてのレーザーワイヤーを切断するのが賢明である。ふつうは3メートルの鉄格子のうゑにレーザ

ワイヤーのコイルがある。さらに鉄格子の内側には三つのコイル（三つ以上の場合もある）が積み上げられている。コイルを切断せずに丈夫なカーペットをコイルの上に敷いて乗り越えてもよい。その場合は最もコイルの密度が高く、硬い箇所を選ぶとよい。怪我に備えて救急箱を持っていくこと。夜間の切断には懐中電灯が必要である。フェンスが何重にもあるので、ひとつのエリアをどうにか乗り切っても別のエリアで同様の作業が必要となる。

犬

犬の近くには大抵調教師がおり犬は十分に訓練されている。犬が休めの命令を受けるまでじっとしていること。通常犬が放たれる前には警告がある。犬は逃げ人を追う。犬は隠れている人を見つけるのにも用いられるし、起伏が多くて見通しの悪いところを探すのにも使われる。犬が放たれている可能性のあるときは落ち着いて、動かずに静かにしていることである。

銃

私たちが知る限りでは、国防省警察で銃を携帯しているのはゲートにいる警官だけである。しかし、武装した海軍警備隊がすべての厳戒警備エリア（核弾頭貯蔵庫、潜水艦停泊地）を見張っている。彼らに呼び止められた場合は、身元を明らかにし抗議行動を行っているが武器は持っていないことを説明する。泳いで潜水艦上に到達したファスレーン・ピース・キャンパーが海兵隊員の肩をたたき、「こんにちは、ピースキャンプのものだけど」と言った時その海兵隊員はショックで気を失いかけた。海兵隊員は、あなたが彼に会って感じたのと同じくらいの興奮状態に陥ってもおかしくない。厳戒警備エリアでは不審者は撃ち殺すという方針をとっていると考えておいたほうがよい。私たちは、彼らがどんな命令下で行動しているかは知らないが、もし見つかったらじっとして、手を広げて武器を持っていないことを示し、危害を加えるつもりのないことを見せなくてはならない。冷静に落ち着いて話をし、危害を加えないと説明する。実際にはもう何年も、武装していない平和活動家が厳戒警備エリアという非常に厳しい状況下で武装警備隊に発見されても撃たれてはいない。これは、非合法で非人道的な大量殺戮兵器に反対している武装していない平和活動家が撃たれると政治的に非常に困った事態に陥ることになるからだ。覚えておいて欲しいのは、警備隊はとても緊張している可能性があり、いつ何時拳銃を使うかもしれない

ということだ。だからこそ、あなたが危害を加えないということを彼らにはっきり分からせなくてはならないのである。置かれている状況を敏感に感じとらなくてはならない。活動家が撃たれて欲しくないし、警備隊にも活動家を撃ったという良心のつめを味わわせたくはないのである。

崖

クールポートはとても大きな基地でその大部分は明かりのない険しい斜面の中腹にある。急峻な崖と峡谷があるので、自分がどこに向かっているかわからなければ走ってはいけない。

水

クライドの海水は一年中冷たいのでそれに適した服装が必要だ。波も高く潮の流れも在る。天候が急速に変化することも忘れてはならない。その地域のことをよく知っている人に話を聞くことである（ピースキャンプまたはスコットランド CND オフィスに連絡するとよい）。ポートで海に繰り出す前に潮汐表や地図を勉強しておくこと。警官や海兵隊がさまざまな大型高速ボートで警備をしており、ボートやカヌーで侵入した場合、彼らは躊躇することなくそれらを転覆させて阻止するが、その後で救助もしてくれる。泳いで侵入した場合は阻止され引き上げられる。あっという間に警官は数十隻のボートを出動させることが出来る。トライデントの周りには8隻の特別な警備船と武装警備兵がいる。ファスレーンとクールポートには13のミサイル発射台とたくさんのゴムボートがある。私たちが彼らに警告を与えると、かれらは簡単に援護を呼べる。夜間、警備船は無灯火ですばやく走り回っている。タグボートや他の船も走っている。武装した海兵隊は潜水艦のドックやその周辺をパトロールしている。

トライデント潜水艦の典型的な警備は、2隻の大きなタグボート、2、3隻の警察のランチ（そのうちの1隻が一团を青色の点滅灯で先行している）、6隻のゴムボート（武装兵が乗船していて、潜水艦の片側に3隻ずつ、ピッタリくっついて走っている）で構成されている。たくさんの潜水夫が乗っていて、平和活動家を近づけないようにしているが、クールポートでの海上行動も含めた最近の英国海軍の防衛セキュリティ訓練では、セキュリティが完全に破られた。攻撃側が8隻の高速艇を使って、ポラリス棧橋やトライデント爆発物取り扱い棧橋に人を侵入させた。グリーンピース(Greenpeace)も4隻のボートを用いて、英国軍艦リベンジ(HMS Revenge)に侵入

した。基地の海岸付近の立ち入り制限区域を示す地図が欲しい人はコア・グループかファスレーンピースキャンプ(Faslane Peace Camp)に連絡するとよい。

水を吸引するためのポンプジェット（インターナルプロペラー）が潜水艦の横にある。水を吸引しているこのエリアには近づかないこと。また、動いている艦船の周りは小さな物を吸い込むので気を付けなければならない。国防省の警官が、夜間にトライデント潜水艦の前で高速でボートを操作していて命を落とした。

クライドの海上行動(Clyde Sea Action)はゲール湖(Gare loch)の入り口を拡大した 1986 年に始まった。そのときの海軍の海上行動に対する反応はいささか大変なものだった。船を衝突させたり転覆させたりすることがあった。しかし、関係は改善してきており、このようなことは少なくなっている。

「国防省の反応のレベルは引き起こされた厄介さに比例する」といえるだろう。もしあなたが多くのトレーニングを積んだ潜水夫の裏を書くなれば、彼らの反応は手荒いものになるだろう。

ウェットスーツを着ると活動家であることが外からは見分けにくくなる。時々基地では強力な花火が水中に投げ込まれて訓練が始まることもある。それは泳いでいる活動家を失神させるほど強力だが、数人の活動家は何とか泳ぎきり潜水艦への侵入に成功している。防護的なウェットスーツを着ることは寒さからあなたを守るだけでなく、クラゲの針からもあなたを守ることになる。1998、1999、2000年の8月の非武器化キャンプにおいて、活動家は夜間に湖を泳いで横切り、浮きブームを潜り抜けてトライデントが止まっている数ヤード近くまで接近した。

基地内への侵入の仕方はいくつもある。金網をすり抜けるだけでなく、乗り越えたり、穴を掘ってぐり抜けたり、迂回したりも出来る。海や地上や空からも侵入できる。気球、パラシュート、ハングライダー、カヌー、いかだ、ダイビング、自転車、竹馬、変装、古い車などいろいろな道具を利用して侵入できる。

原子炉と核弾頭

トライデント潜水艦は水上の原子炉である。訳の分からぬまま装置を破壊すると原子炉の安全な運転に影響を与える。中央制御室のいくつかの装置は原子炉の運転に関係している。原子炉が設置されている場所、核弾頭がある場所、ミサイルがある場所、

ミサイルを制御するコンピューターのある場所、核弾頭が貯蔵されている場所には侵入してはならない。潜水艦上では、それらの場所は展望塔後部の潜水艦の長い部分にある。しかし、前部には魚雷があり、そこも問題の場所だ。潜水艦内全体にわたって原子炉の安全にかかわる装置がある。トライデント潜水艦での火災は大きな災害に繋がる一大事なので、電気系統に手を触れてはならない。ドック側から潜水艦に繋がっているパイプやケーブルには手を触れてはならない。それは原子炉の緊急バックアップシステムと関係しているかもしれない。ちょっと写真を見ただけでも、どんなにたくさんのケーブルやワイヤーが在るかがわかる。トライデント・ミサイルはそれぞれ核弾頭に加えて、50 トンの高性能爆薬とロケット燃料を積んでいる。第3段目ロケット付近には核弾頭がある。そこはロケット燃料を積んでいて誤爆しやすい。

スピアフィッシュ(Spearfish)魚雷はオットー(Otto)燃料を推進源としていて、その燃料は有害で爆発する危険がある。この魚雷の初期の試験では少なくとも1回の致命的な事故があった。誤爆は以前使われていた他の古いタイプの魚雷よりもスピアフィッシュで起こり易い。

潜水艦の外郭は水中の高圧に耐えられるように設計されているので、ハンマーで叩いても安全である。けれども、ミサイル発射管や原子炉があるあたりのところは叩いてはいけない。しかし粘着性のある物質やペンキを表面に塗るのは安全である。

絶対に安全でなければならなし、自分が何をしようとしているのか分かっていなくてはならない。もし分からなければ行動を起こしてはいけない。何のために用いられるのか分からない装置があったら、手を触れてはならない。潜水艦の前部、つまり展望塔の前の短い部分は原子炉や核ミサイルから離れているので、叩いたり、穴をあけたり切断したりするのに最も安全な箇所だ。「非公開の」または「予告なしの」行動であってもきちんと説明責任は果たさなければならない。私たちが行っているのは妨害行為ではなく、よく考えられた非武器化行動なのである。私たちは行動の結果についてよこんで説明するし、行動の理由についても説明する。「非公開」行動の場合は、私たちの出現を警備隊員が予期していないので、警備隊員からの暴力を受ける危険がある。だから、あなたの突然の出現が誰にも恐怖を与えないような平和的なものであるように心がけること。

5.2.2 非武器化へのアイデア

非暴力と安全という基本原則さえ守れば、何をどう非武器化するかはそれぞれのアフィニティ・グループに任される。あなたのグループ全体が安全であると感じることやできることをすること。

トライデント潜水艦の中

一般的なアイデアは、ミサイル発射コードが保管されている金庫の錠を強力瞬間接着剤で糊付けすることだ。または、制御室、寝台室、トイレ、台所、その他（英国軍艦ヴィクトリアスの図中で示された）行くべきではないエリアをのぞいた場所で潜水艦の中に籠城することだ。活動家を乗せたままでは潜水艦は航海には出られない。水漏れを起こさせるために内側から外側への穴をあける。潜望鏡や通信制御機器を見つけてそれらが機能しないようにする。ドアがしっかり閉まらないようにする。

トライデント潜水艦ヴィクトリアス(HMS Victorious)のエリアごとに番号のついた図を参照のこと。

次のエリアには近づかないように。

エリア 11—原子炉

エリア 16—トライデント・ミサイル発射管

エリア 20—ディーゼル発電機（これは原子炉の安全のため絶対必要）

エリア 27—魚雷保管場所

エリア 18(ミサイル制御センター)でも注意しなければならない。潜水艦内のミサイルの安全性を制御するための装置がここにはある。この部屋の装置の破損はミサイルに影響を与える。しかし、シロップ、絵の具、ジャム、のりをぶちまけることは安全で効果的だ。また、**エリア 33**には魚雷があるかもしれないので気を付けなければならない。**エリア 10**でもエンジンの制御をおこなっており、原子炉の制御に関係があるかもしれないので気を付けること。

あらゆる非暴力的な方法でトライデントを非武器化させることが出来る重要なエリアは以下である。

エリア 3 と 4

舵取り装置とクラッチ。他の乗り物と同じように、操縦系やギアにダメージを与えれば、遠くまでいけなくなる。

エリア 13

蒸発気と蒸留器

ここでは新鮮な水、新鮮な空気が作られる。これを使い物にならなくすれば、潜水艦は何処にもいけない。

エリア 17

航行センター

このエリアは説明する必要も無い。同様なことがエリア 21 とエリア 29 にも当てはまる。

エリア 21

主制御室

この部屋は潜水艦の中樞ですべての装置をここで動かしている。コンピューターの上に物質をこぼすと電子制御系統に支障をきたし一大事になるので非常に効果的である。しかし原子炉の制御系には手を触れてはならない。

エリア 28

ハイドロプレーン（水平舵）

このエリアは潜水艦が上昇するか下降するかを制御している。この部屋での非武器化行動はトライデント搭載潜水艦を航行不可能にする。

エリア 29

操縦室

主制御室と同様に、ここも潜水艦にとって重要な場所だ。ここで潜水艦への攻撃の程度が割り出され、対処される。ここにも潜水艦を航行不可能にする電気系統はたくさんあるが、原子炉制御系には手を出してはならない。

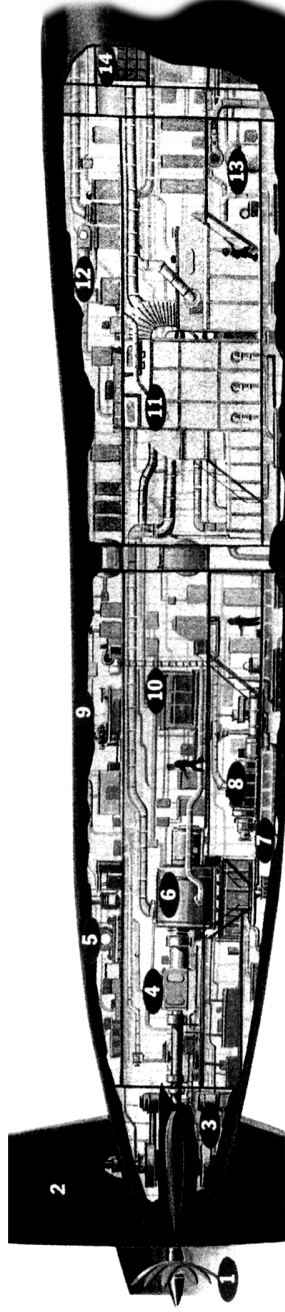
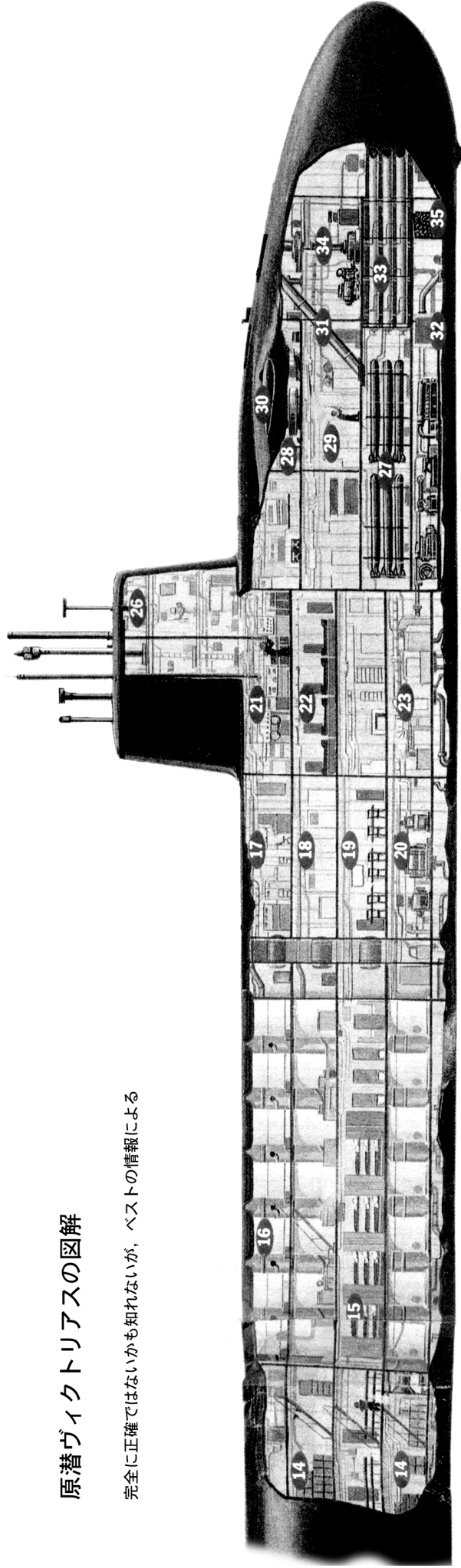
トライデント潜水艦の外側

入り口やフラップをハンマーで叩く。前方にあるソナー群をハンマーで叩く。潜水艦の後ろについている曳航ソナー（牽引用アレイ）を壊す。曳航ソナーは停泊している潜水艦の近くにあり、僅かに水没している。潜水艦の上に出ていることもよくある。写真では、潜水艦上に大きな糸巻きのような物体があるが、これが牽引用アレイの一部で、そこに繋がっているケーブルを切ると非常に効果的である。

潜水艦の表面は音を吸収する遮音タイルで覆われている。このタイルのおかげで潜水艦は発見されにくいのである。これらのタイルを傷つけると音を吸収しなくなる。タイルを剥がしたり、色を塗ったり、

原潜ヴィクトリアスの図解

完全に正確ではないかも知れないが、ベストの情報による



大きさの比較のため、
二階建てバス



= このエリアは立入禁止

- 1 プロペラー
- 2 ラダー (かじ)
- 3 ラダーマシン
- 4 クラッチ
- 5 空気圧縮機
- 6 主タービン
- 7 バラストタンク

- 8 ターボジェネレーター
- 9 工作室
- 10 エンジンルーム制御
- 11 原子炉スペース
- 12 空調機
- 13 蒸発/蒸留
- 14 貯蔵庫

- 15 乗組員居住区
- 16 核ミサイル管
- 17 航行センター
- 18 ミサイル制御センター
- 19 食堂
- 20 デイゼル発電機
- 21 指令センター

- 22 上官の部屋
- 23 補助機械室
- 24 潜望鏡
- 25 レーダー
- 26 ブリッジ
- 27 魚雷貯蔵庫
- 28 ハイドロプレーン/機械

- 29 操縦室
- 30 ハイドロプレーン (水平舵)
- 31 魚雷挿入管
- 32 オイル燃料
- 33 魚雷管
- 34 機械/ウインチ部屋
- 35 バラスト

他の物質をつけたりすると、潜水艦が敵から発見され易くなり、潜水艦は使い物にならなくなる。実際には、潜水艦はタイルが何枚か剥がれた状態で港に戻ってくるので、効果をあげるには相当な数のタイルを剥がさなくてはならない。

展望塔の頂上には幾つかの穴や凹みがあり、必要な時にそこから電波アンテナやレーダーアンテナ、潜望鏡が上がってくる。これらの装置は通常船体内部に納めてある。これらは、メタルパンチ、ドライバー、長い金属棒などを穴や凹みに挿入し、瞬間接着剤でくっつけてしまえば損害を与えることができる。展望塔にある連絡用装置（潜望鏡やアンテナ）を切断したり、叩いたり、折り曲げたりも出来る。こうした行為はとても敏感な潜水艦の装置にダメージを与え、潜水艦の視覚を奪い、修理が完了するまで航海には出られなくなる。

べとべとのジャム、シロップ、糖蜜、のりや他の粘着性のある物質はとても効果的だ。レーダーアンテナや潜望鏡の穴に栓をするのに使えるので、穴の中に注ぐとよい。シロップや糖蜜に砂と塩と水を加えるとジャム単品よりもっと効果的だ。コンクリートやアーク溶接は潜水艦の前方にある潜水翼で使用可能である。

ハンターキラー潜水艦

トライデント潜水艦に同行しているハンターキラー潜水艦は、システムの一部で、トライデント潜水艦と同様のやり方で非武器化できる。現在（2001年1月）、12のトラファルガー級とスイフトシュア級潜水艦の内6つの戦艦が英国軍艦タイヤレス(HMS Tireless)と同様の冷却機関の問題や、システム破損の問題で危機的状況にある。タイヤレスは、ほとん



ど原子炉の炉心溶解に近い事故を起こした後、ジブラルタル(Gibraltar)の緊急(Z)停泊所で修理が行われている。

トライデント潜水艦を港に引き入れるタグボートや警察の警備船も非武器化の必要があるかもしれない。

1998年3月、4人のトライデント・プラウシェアズの女性が8月に行う非武器化キャンペーンのための事前調査でクールボートを訪れた際に、ドックでキーが差し込まれたままの警察のボートを見つけた。彼女達は戦争犯罪捜査という理由でそれを借用した。クールボートの爆発物取り扱い棧橋を調べたあと、14マイル(22.5キロ)離れたファスレーンまでそれに乗って行き、逮捕される前に一人を浮きブームの上に上陸させることに成功した。この事例は、チャンスさえあれば軍の道具は非武器化にとっても便利であることを示しているが、危険でもある。その理由は、それが計画された行動ではないからだ。すばやく判断をする訓練をあなたのアフィニティ・グループで行う必要がある。

ファスレーンでの船体の引き上げ

船を水中から引き上げるための建物があり、そこでは長さ150メートルのトライデント潜水艦をメンテナンスの為に引き上げることができる。メンテナンスはトライデント潜水艦を運転可能にするのに不可欠である。しかし、平和活動家が近くにいる場合にはメンテナンスを中断しなければならない。活動家は24メートルの高さの潜水艦に三つのレベルから近づける。のこぎりや幾つかの有効な道具を用いて、いろいろなクレーン、構台や他の装置に被害を与えることができる。クレーンに被害を与えれば修理作業はストップするし、物資の運び込みも止まる。ねじやボルトを外すこともできるし、傷つけ易い箇所穴をあけることも出来る。

アクセスルート

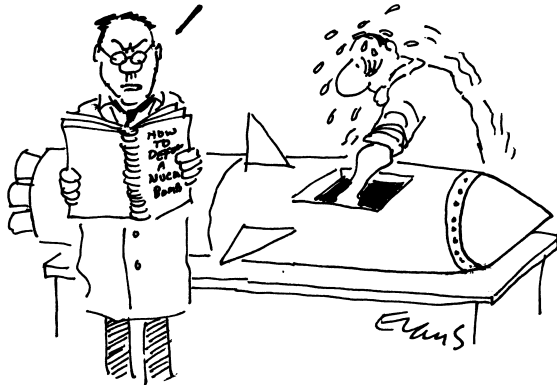
ルー・ナローズ(Rhu Narrows)はファスレーンに出入りするトライデント潜水艦の狭い通路である。ルー・ナローズや他の場所を封鎖することは可能である。鉄製のケーブルで繋がれたブイと錨を水面に浮かべることが出来るし、魚用の網を張ったり、ボートをひっくり返して通行の邪魔をすることもできる。全てのボートや船の持ち主にルー・ナローズを封鎖するように呼びかけてみるのはどうだろうか。その海域には12ノットの速度制限がある。「海を埋め立てよう」と名づけた妨害行動はどうだろうか。ルー・ナローズには占拠可能な照明塔とレーダー塔もある。そうなったらトライデント潜水艦は別の誘導システムを使うだろうが。

潜水艦の座礁は核事故に繋がる可能性があるという事実を考慮に入れて行動を起こさなければならない。原子炉冷却システムのための吸水口が潜水艦下部にあるので、原子炉の安全性を維持するために潜水艦と地面の間に間隔をあけなければならない。地面との接触も原子炉制御に影響を与える。

だから、妨害物があるという警告を掲げるとともに、基地と連絡を取らなくてはならない。

ブームの上に居座ると、潜水艦の出入りが出来なくなる。前のページにあるブームの接続を示した写真を参考にして身体を固定するとよい。海上から近づくカヌーや船を検知する赤外線装置はあるが、完全なセキュリティーシステムなど存在しない。トライデント周辺の幾つかのブームは門みたいなもので、トライデントが出入りする際に開閉する。あなたはその上に立つことも可能だし、いろいろな部分に居座ることも可能だし、それを通り抜けることも可能だ。大きさを調べるとよい。私たちは、ブーム内の厳戒区域に3年間で20回侵入した。計画を実行する前に一度ファスレーンを訪問して計画の実行可能性をチェックしてみるとよい。

"-now hold your breath and carefully remove the lump of plutonium by the detonator..."



編集者註：これはジョークである。だれも絶対にこんなことをしてはならない。

基地の中や外で、ツルハシ、または前方にショベル、後方に掘削機をついた建築機器で連絡道路に穴を掘ったり、古い車でバリケードを作りその上に居座ることも効果的である。核弾頭貯蔵庫から基地に繋がる道路は生命線である。穴を掘るときには緊急車両の通行を思い出すこと。クールポートには爆薬取り扱い栈橋(Explosive Handling Jetty)に繋がる道路が2本ある。そのうちの一つは核弾頭の運搬には勾配が急すぎるが、緊急車両が通行する可能性はある。潜水艦内にはたくさんの原子炉または核弾頭があるので、核事故はいつでも起こり得る。よって、すべての緊急車両のアクセスが必要である。道路に穴を掘ったり、障害物をおくなら、緊急車両が通行する場合に備えて、すばやく安全に穴をふさいだり障害物を取り除いたりできるようきちんと計画し準備しておかなくてはならない。あなたは頻繁に行われる核弾頭の輸送や基地への物資の輸送を止めようとしているのであり、救急車や消防車のアクセスを邪魔しようとしているのではない。とてもたくさんの小規模事故があり、緊急車両は頻繁に行き交う。

5.3 オルダーマストン(Aldermaston)とバークフィールド(Burghfield)についての背景説明

5.3.1 AWE オルダーマストンとAWE バークフィールドって何？

核兵器製造保管施設(AWE: The Atomic Weapons Establishment)オルダーマストンは英国における核兵器製造の中心である。1950年代及び60年代のデモ行進から現在にいたるまで、AWEは事あるごとに反核派、環境推進派、反軍国主義派の非難の対象となってきた。特にオルダーマストンにあるAWE plc(公社)は、英国のトライデント核弾頭の製造、保守、最終的な廃棄処分までを行っている。そこは原子科学の他の分野(レーザー技術、材料試験)の発展にも寄与している。英国政府が将来トライデントの改良や交替を決定した場合に備えて、AWEは次世代の核兵器を開発(既に進行中であるとも言われている)するためのシステムをもっている。

オルダーマストンは英国政府の国防省に属している。しかし、1990年代初頭以来、AWEはGOCOステータス(政府が所有し契約業者が運営するステータス)を持っている。このことは、政府がその場

所を所有しているが、民間会社が日々の運営を行い、利益をあげていることを意味する。このステータスは、AWE バークフィールドにも適用されている。バークフィールドはオルダーマストンの兄弟サイトで、7マイル(11.3キロ)離れたところに位置する。バークフィールドでは、高性能爆薬(起爆に必要)が核弾頭に装填される(また、点検や解体のために取り外される)。バークフィールドは核弾頭輸送車両(グリーン: greens)がときどき立ち寄るところでもある(核弾頭を配備する為に、収集または配送するときに突然立ち寄る)。「グリーン」がオルダーマストンに直接来ることはないが、オルダーマストンは特別核物質輸送車両(ブルー: Blues)の基地という特別な立場を与えられている。これらの小さいトラック(ブルー)は、核物質を集配して、英国の国防省の「特別護衛団」と共に、英国内を転々としている。よく立ち寄る場所は、セラフィールド(Sellafield)(英国核燃料会社[BNFL] Cumbria)、チャペルクロス(Chapelcross)(国防省原子炉、スコットランド境界)、ハーウェル(Harwell)(原子力公社[AEA Tech]、オックスフォード郡)、ロールスロイス・ニュークリア(Rolls Royce Nuclear)(原潜用原子炉製造業者、ダービー[Derby])などである

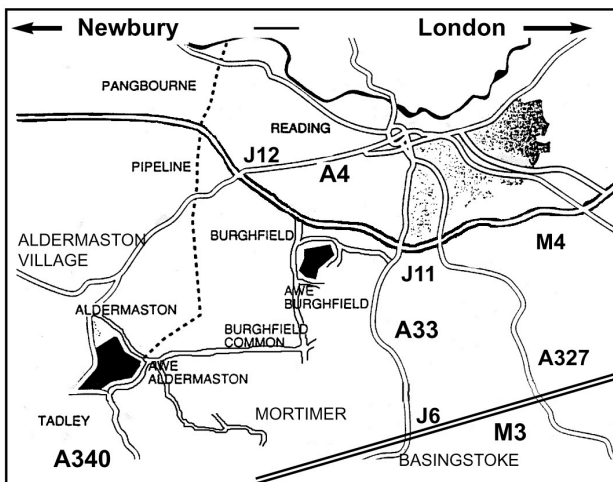
2000年までの7年間、AWEはHunting-BRAE企業連合(Hunting Plc、Brown&Root、AEATech)によって運営されていた。しかし、その契約が2000年3月31日に切れたので、2000年4月1日から、別の企業連合が運営している。この新しい企業連合は、英国核燃料公社(BNFL)、ロッキード・マーティン(Lockheed Martin)、セルコ(Serco)で構成されている。たいていの英国の活動家は英国核燃料公社については知っているであろうが、ロッキード・マーティンやセルコのことは知らないかもしれない。ロッキードは世界最大の武器製造会社の一つである。(トライデント・ミサイルのボディーやステルス爆撃機の製造、テネシー州にあるオークリッジ[Oak Ridge]を始め多くの原子力機関を米国で運営している)。セルコは「施設の運営管理」を行う会社で、多くの英国の契約(特に刑務所、鉄道、病院の分野)で利益を得ている。これらの会社はホームページをもっているため、そこを見れば巧妙な彼らの経営手腕について多くの情報が手に入る。

廃棄物に関しては、AWE オルダーマストンはあらゆるレベルの放射性廃棄物を燃やしたり、埋めたり、流したり、貯蔵したりしている。英国核燃料公社の

ドリッグ(Drigg)用地とサザンプトンシャンク(Southampton's Shanks)の焼却炉は AWE と契約を結び、AWE からの廃棄物を埋めたり焼却したりしている。ほかの廃棄物は小さな小川に棄てられるか、テムズ川に繋がる、今では悪名高いバングバーン・パイプライン(Pangbourne Pipeline)が使われる。オルダーマストーンには、「危険な場所」(歴史的な投棄や事故が原因)、化学物質に汚染されたサイトやその周辺、大量の放射性廃棄物の貯蔵庫がある。オルダーマストーンもバークフィールドも危険区域をもっている。その区域には、表示があるかもしれないが、ないかもしれない。だから、行動をおこすならば、予め健康や安全を脅かす事項について出来るだけ多くの情報を集めること。

以上のことから、トライデントに対する抗議行動の一部として、反核、環境推進及び反戦活動家の人々がオルダーマストーン(そしてバークフィールド)に圧力をかけ続けることがいかに重要かを理解してもらえたと思う。

5.3.2 それは何処にあるのか？



AWE Aldermaston, location map
Junction 11 or 12 on M4 or junction 6 on M3

AWE オルダーマストンの位置

車で来た場合、M4 通りのジャンクション(Junction)11 かジャンクション 12、または M3 通りのジャンクション 6 から入る。

5.3.3 行動するにあたって

一般的なこと

AWE オルダーマストーンに適切な道具なしで侵入するのはまず無理である。手法を注意深く選択して後は幸運を祈るしかない。しかし完全に防衛されて

いる場所などない。幾つかの弱点があるのが当たり前。結局のところ、警官が幾つかの侵入にかかりきりか、または予想外の展開(TP の非武器化キャンプでは決して起こらないような行動)があれば、幾つかのグループは紛れ込むチャンスがある。ファスレーンやクールポートとは違って、オルダーマストーンは海から 40 マイル(64.4 キロ)ほど離れているし、隠れるのに良さそうな草や木もあれば、いくつか明かりのないところもある。基地の周囲は 6 マイル(9.7 キロ)あるので、警官を増やさない限り一度に全部は監視できない。しかし、たくさんの監視カメラが設置されている。

安全性

ファスレーンやクールポートのように、オルダーマストーンとバークフィールドの二つの AWE は国防省警察(MDP)によって警備されている。彼らは拳銃と機関銃を持っている。また、犬、手錠、他のあまり強力でない武器も持っていると思われる(ピースキャンプの女性はそうしたあまり強力でない武器を所持した警備隊を実際に見たことはないが)。軽い怪我をした女性や犬を放たれた女性(中には嘔まれた人も!)は何人かいるが、重症者が出たことは一度もない。

オルダーマストンの A90 エリア(dark side)には三つのフェンスがある(侵入しようとする方向にもよるが)。また、タクティカス(Tactics)と呼ばれる武装車両が警戒にあっている。

バークフィールドでは、コマンドのような国防省警察「対応部隊」が厳戒区域を警備しているので十分に注意すること。

放射能: オルダーマストーンには、敷地内やその周辺に汚染されたところが幾つかある。原因は、放射性のゴミや、化学性のゴミによる。これらは、北東と南東の基地外のコーナーと、基地内では古い原子炉(p84 参照)があるあたりだ。あらゆる A で始まる場所は、低レベルの放射能で汚染されていると仮定したほうがよい。貯蔵区域も同様である(大量の放射性廃棄物がそこには貯蔵されている)。北池区域(North Pond Area)は、放射能汚染区域として昔から知られており、トリチウムを含んだ水の貯蔵にも使われている。その水はやがてオルダーマストンの小川に放出される。そこには落ちないように!

セキュリティ

オルダーマストーンは、少なくとも二つのフェンスで囲まれている。はじめのフェンスは通常の波形巻線鉄網で、その上には有刺鉄線がある。二つ目は、頑丈なフェンスで 2.5mもの高さがある。その上にはレーザーワイヤー（蛇腹形鉄条網）がある。フェンスの外側、60センチのところには5つの細い検知用ワイヤーが張られていて、それは地上 30センチからフェンスの一番上まで続いている。

固定カメラと操作可能な赤外線カメラで基地全体が監視されている。A エリアはさらにもう一つの金網で囲まれている。侵入する方向によってはもっとあるかも知れない。

バークフィールドの周囲は金網で囲まれていて、その内側には5つの検知用ワイヤーが設置されている。しかし、フェンスを切り、検知器の間を注意深くすり抜けて侵入することも可能だ（運に恵まれるか、痩せているか、十分に時間をかけてやるか、など）。

何を非武器化すればよいか

・オルダーマストーンでは

輸送用車両 (blue と green)

これらの車両に関する技術的な情報は、「ニュークウォッチ(Nukewatch：核の番人)かスコットランドCNDにきくこと。(連絡先は10章10.1に記載)

管理棟/最高責任者の司令室これらの場所には、たくさんの書類やコンピューターがある。それらを失いたくないのは明白である。占拠後、電気と電話線等を使って実況放送することも可能だ。

A90/A 団地

この建物は、トライデントの製造には重要だ。それ故、その操業を妨害するのはとても危険である。もし、本当に A90 や他の A で始まるエリアで行動を起こしたいならば、最初に多くの助言を求めること。空気循環システムを妨害しただけでも重大な結果を引き起こす。行動した後の結果が安全であると確信できるまでは、どんな行動も起こしてはならない。



特別護衛団

これらの人員と車両は輸送用車両が移動するときに必要な。特別護衛団の本部と車庫は、タッドリーゲート(Tadley Gate)の左前方にある(p84の地図参照)。

・バークフィールドでは

輸送用車両/警戒区域 (HSA)

ここに近づくためには、南側から近づかなければならない。その際には、溝、壁、カメラ、警備隊(緊急対応部隊)に気を付けること。南側から近づくことは可能だが（実際に成功した人がいる）運と技術が必要である。別の方法は東側からの侵入である。時間を十分かけること（侵入自体は南側からよりも見つかりにくいですが途中で捕まる可能性大）。輸送用車両を護衛する車両は **HSA の外側** にいて、近づくのは容易である(P85の地図を参照)。輸送用車両はこれらの車両なしでは動けない。

障害物による封鎖

バークフィールドには二つの門しかない。だから、女性2人で十分に封鎖することが可能だし、実際に封鎖したこともある。規模が大きくて、多くのメンバーがいるグループは長時間基地を封鎖できる。核弾頭輸送用車両がスコットランドまでトライデントを運ぼうとしている時であれば、封鎖行動によって政治的論議を引き起こす絶好の機会となるだろう。

5.4 その他のトライデント関連サイト

トライデント・システムにとって重要なサイト（ファスレーン、クールポート、オルダーマストーン、バークフィールド以外）を非武器化したいアフィニティ・グループもあるだろう。

トライデント潜水艦はバロー (Barrow) にある Vickers Shipbuilding and Engineering Ltd. (VSEL) で建造される。現在は BAe system と呼ばれている。セラフィールドで用いる核物質はバローで受け取る。

トライデント潜水艦の母港はファスレーンで、搭載される核弾頭はクールポートで貯蔵されている。ミサイル（潜水艦が米国からもってきたミサイル）は潜水艦上にある。それらは、検査、補修のために米国に戻される。私たちの知る限りクールポートは、ロケット燃料、高性能爆薬、プルトニウムの三つが

近接して保存されている英国唯一の場所である。

トライデント核弾頭の大抵の部品は AWE **オルダーマストーン**で製造される。このサイトは英国のあらゆる核兵器に対して重大な責任がある。しかしここには、放射能で汚染されたエリアやたくさんの爆薬が貯蔵されている場所があるので、侵入の際には十分に気を付けなくてはならない。

英国の核兵器のあらゆる部品は AWE **バークフィールド**に輸送され、そこで核兵器に組み立てられる。完成した核兵器は夜間**ウィッターリング**、**アルバメール**、**ロングタウン** (Wittering, Albermarle, Longtown) を経由して、クールポートまで陸上輸送される。また少数の核弾頭が詳細な検査の為に、輸送用車両によって定期的にバークフィールドに持ち込まれる。これらは修理されるか新しいものに置き換えられる。

トライデント潜水艦の動力源である原子炉は、**ダービー**(Derby)にあるロールスロイス(Rolls Royce)で建造され、鉄道でバローに運ばれて据え付けられる。原子炉の燃料もここで製造される。ここについてはあまり知られていないが、トライデントプログラムの主要な役割を担っている。燃料棒は**スプリングフィールド**(Springfields)で製造される。トライデント潜水艦で使用されている原子炉の原型炉は英国軍艦バルカンにあり、**ドーンリー**(Dounreay)のロールスロイスアソシエイツによって運転されている。その原子炉は 1998 年に燃料交換され、炉心は 15 年間動くように設計されている。

核弾頭の主要な構成要素はプルトニウム、トリチウム、高濃縮ウラン(HEU)である。プルトニウムは常に**セラフィールド**(Sellafield)で生産され貯蔵される。プルトニウムは**カルダーホール**(Calderhall)と**チャペルクロス**(Chapelcross)にある原子炉の使用済核燃料を再処理することで得られる。現在、核兵器に使われているプルトニウムはここでは製造されていない。しかし、大量の軍事用プルトニウムはここに貯蔵されている。

数年前までは、ウラン濃縮は**カペンハースト**(Capenhurst)で行われていた。今ではたくさんの高濃縮ウランの蓄えが英国にあるので、そこでの濃縮は現在行われていない。

トリチウムの製造はチャペルクロスで続いている。爆弾用プルトニウムを製造するのに使われた原子炉がトリチウムを製造するのに役立っている。トリチウムは現代の核兵器の主要な構成要素である。新鮮なトリチウムの供給がないと、トライデントの核弾頭は使い物にならなくなる。

パトロールの時には、トライデント潜水艦は、原子力を動力としているハンターキラー潜水艦に護衛されている。これらもバローで建造され、ファスレーンか**デボンポート**(Devonport)を基地とする。

トライデント潜水艦を援護するための対潜ヘリコプターはコーンウォール(Cornwall)の**英国空軍 クルドローズ**(RAF Culdrose)を基地にし、**プレストウィック**(Prestwick)からも離着陸する。トライデントを援護するニムロッド(Nimrod)機の基地は**キンロス**(Kinloss)にある。

トライデント潜水艦はすべてデボンポートで再装備されるようになる。これらの再装備に必要な新しい設備は今後数年間で完成する。建設の遅れや予算オーバーはトライデント潜水艦の運用実現性のマイナスになる。

ハンターキラー潜水艦のいくつかは、現在**ロシス**(Rosyth)で再装備されているが、これもすべてデボンポートで行われるようになるだろう。

ロシスとデボンポートは古くて退役した原潜の墓場である。これらのサイトは原潜を再装備したり廃船にしたりする際に核燃料(原子炉炉心)を抜き取ってきた。炉心はセラフィールドに送られ、それらは再処理の方法や廃棄方法が見つかるまで保管される。ロシスとデボンポートは低レベル及び中レベル廃棄物を保管している。

指揮統制システムの起点はロンドンの**ホワイトホール**(Whitehall)の国防省である。実際の運用上の指示は英国空軍 **ノースウッド**(Northwood)から送信される。しかし、トライデントは米国の指揮統制システムや NATO のさまざまなシステムとも密接に連結している。

トライデント潜水艦の指揮統制システムの主要なサイトは**クリギオン**、**ラグビー**、**アンソーン**、**インスキップ**(Criggion, Rugby, Anthorn, Inskip)にある。これらのサイトには無線アンテナなどがある。無線アンテナはボルトを外したり、それを支えているワイヤーを外したりすることで簡単に取り外すことができるが、どこにどのように倒れるか気を付けて作業をすること。それらの幾つかのサイトは民間用のアンテナを併設しているので注意が必要である。何かことを起こす際には、先ず情報を収集してアンテナを的確に識別すること。

ピトレアヴィ(Pitreavie : スコットランドと北アイルランドの英国海軍 艦隊司令本部)、**ブリストル**(Bristol : 国防省物資調達本部)、**バース**(Bath : 英国海軍物資調達本部)は主要な指令本部である。

セントキルダ(St Kilda)やウイスト(Uists)ではトライデント以外のミサイルのテストを監視している。

ヨークシャー(Yorkshire)のメンウィズヒル(Menwith Hill)の米国巨大諜報機関はラグビーの近くにある電波通信所とリンクしている。現在は国防省のかわりにブリティッシュテレコム(BT)が、その電波通信所を運営している。メンウィズヒルは米国の諜報機関にとって重要な場所であり、トライデント・ミサイルの指揮統制システムに関係がある。

トライデント潜水艦を含めたすべての新しい英国の潜水艦はスキエ(Skye)東部でソナー(水中音波探知機)と魚雷のテストをおこなう。これらのテストはBUTEC(英国水中試験評価センター: British Underwater Test and Evaluation Center)によって監視されている。BUTECの管理基地はアルシュ湖(Lochalsh)のカイル(Kyle)にあり、射程操作試験場(Range Operation control site)はロナ(Rona)とアップルクロス(Applecross)にある。

クールポート、ゴイル湖(Loch Goil)、エウエ湖(Loch Ewe)、ロゼセ(Rothesay)、スキエ(Skye)の他にも、潜水艦の緊急時の停泊所(Z)はスコットランドの西海岸に点在している。イングランドにはプリモスサウンド(Plymouth Sound)、スピットヘッド(Spithead)、サザンプトン(Southampton)、カーディフ(Cardiff)、リバプール(Liverpool)にZ停泊所がある。

プリモスのデボンポートロイヤルドックヤード(Devonport Royal Dockyard)は現在350万ポンド(約6億2650万円)をかけて拡大工事を行っている。これは、HMSバンガードを2002年早々に修理するためのものである。その他の潜水艦もその後修理を行う。

ゴイル湖はノイズの実験場で、さまざまな船舶から発生するノイズを検査するために使われている。トライデント潜水艦やその他の潜水艦によって日常的に使用されている。

コーブ(Cove)ーコーブから少し離れた場所に電気系統の実験場がある。ここはトライデント潜水艦やその他の潜水艦によって日常的に使用されている。

ロング湖(Loch Long)はクールポートの南に位置し

ていて、潜水艦の試運転に日常的に使用されている。

アラン(Arran)とビューテ(Bute)の間の海域は潜水艦の潜水試験に利用される。それは週末に実施される。

参考文献と謝辞

アドバイスや助力してくれたファスレーンピースキャンプやCNDメンバーに感謝します。また、実際の経験をつませてくれたファスレーンやクールポートの軍警察にも感謝します！この章はライオネル・トリペット(Lionel Trippett)、ジョン・アインスリー(John Ainslie)、クライブ・ファッジ(Clive Fudge)、ジョー・ブットン(Joe Button)の助力で更新されました。

5.1 トライデント潜水艦、ファスレーン(Faslane)、クールポート(Coulport)についての背景説明

Trident Resister's Handbook-Bob Aldridge

Trident-30years of the Polaris Sales Agreement-Ministry of Defence 1993

5.2 トライデント潜水艦を安全に非武器化する方法

The Safety of Trident - an assessment of the radiation risks associated with the UK Trident Programme - John Ainslie, Scottish CND, February 1994

Safe in our Hands? RAND Coulport - Faslane Peace Camp and Scottish CND, 15th July 1993

We all live in a Nuclear Submarine - Article and diagram in Radio Times, 10-16th August 1996

5.3 オルダーマストンとバーグフィールドについての背景説明

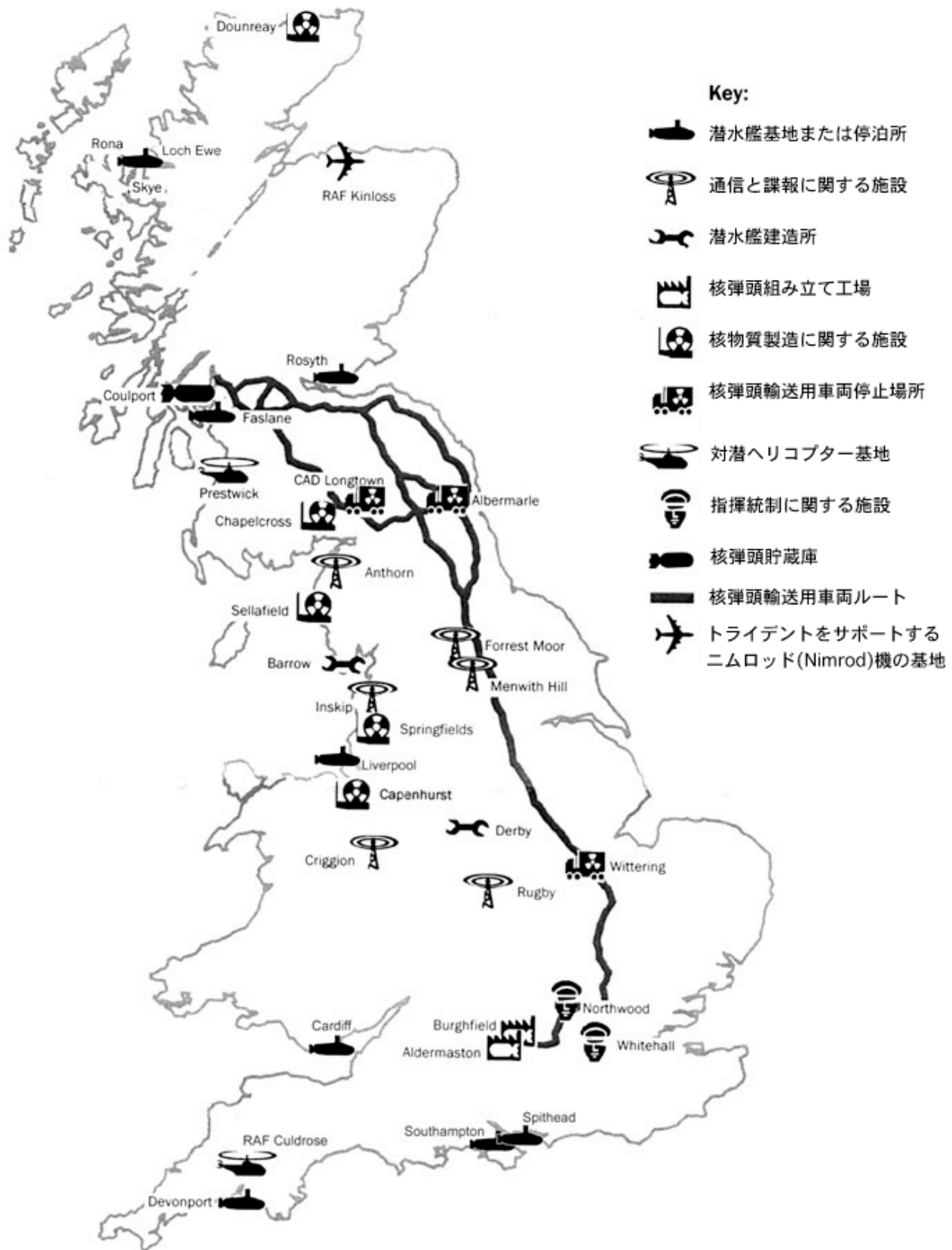
この項は、Ippyの執筆による。

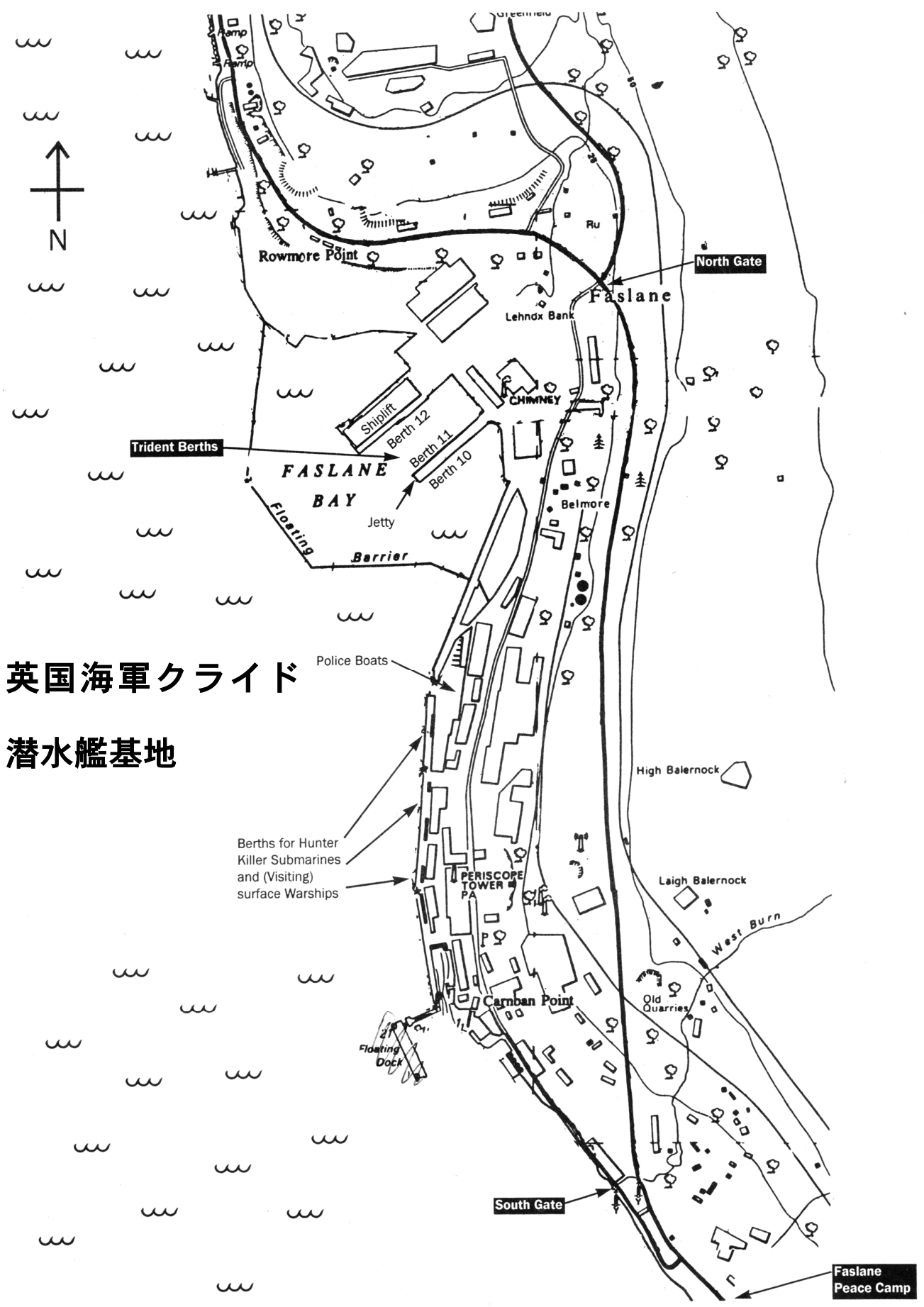
5.4 その他のトライデント関連サイト

Nuclear Scotland in the 1990s- Scottish CND

Main Trident Sites in the UK- CND

英国内の主要なトライデントサイト





英国海軍クライド
潜水艦基地

Trident Berths

Rowmore Point

North Gate

Faslane

Lehndx Bank

Shiplift

Berth 12

Berth 11

Berth 10

FASLANE BAY

Jetty

Barrier

CHIMNEY

Belmore

Police Boats

High Balernock

Berths for Hunter
Killer Submarines
and (Visiting)
surface Warships

PERISCOPE
TOWER

Laigh Balernock

West Burn

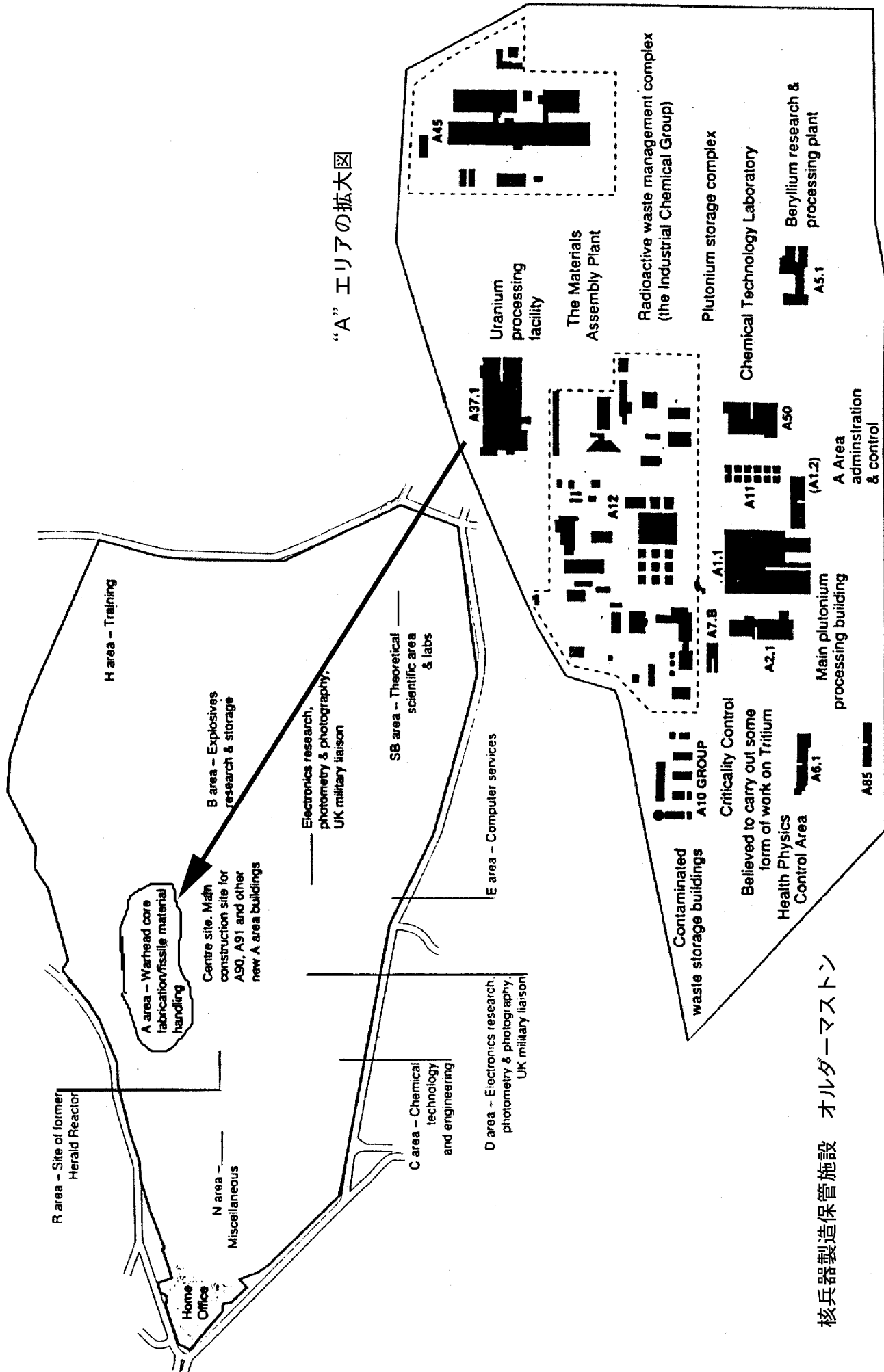
Carnban Point

Floating
Dock

Old
Quarries

South Gate

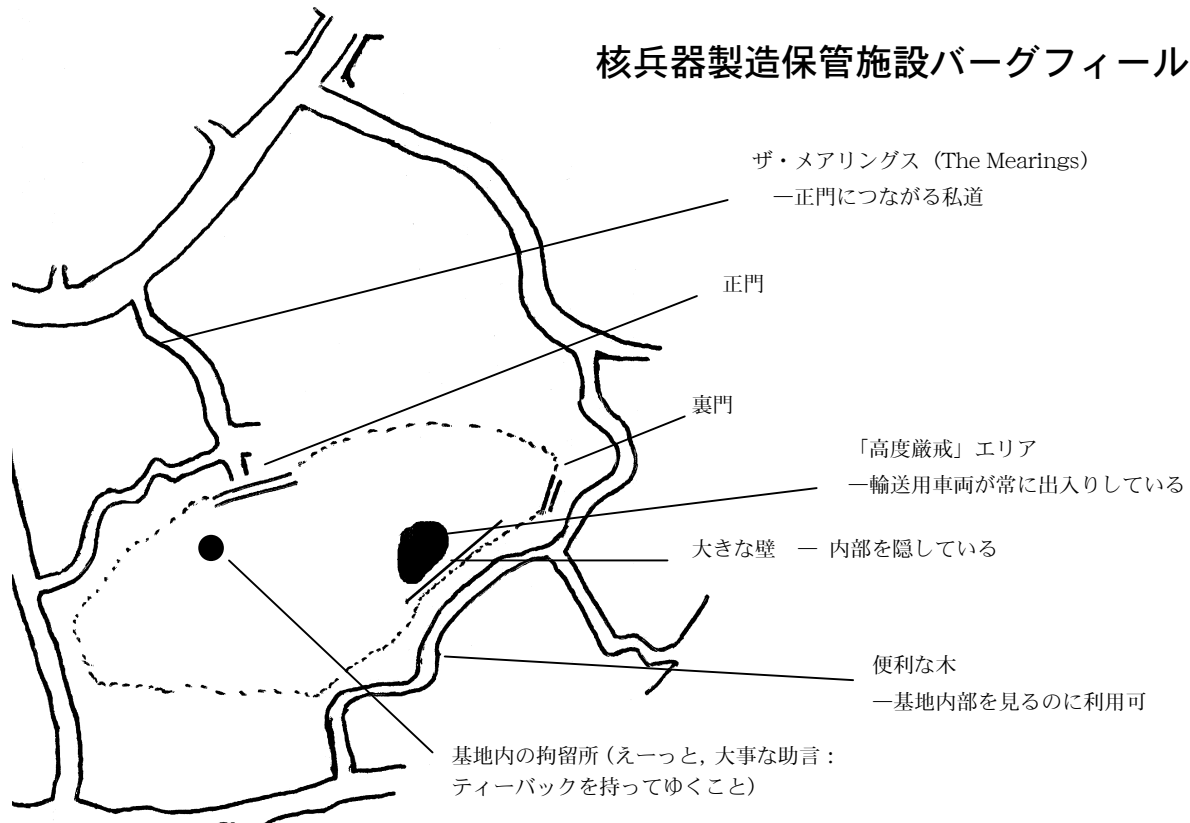
Faslane
Peace Camp



“A” エリアの拡大図

核兵器製造保管施設 オルダーマーストン

核兵器製造保管施設バークフィールド



オルダーマストン：地元の施設（利用可能時間も記載）

トイレ	マルフォーズヒル(タッドリー)(Mulfords Hill(Tadley))男性用女性用共に 24 時間
郵便局	マルフォーズヒル、パンパーヒースロード(Mulfords Hill、Pamper Heath Rd) 9 時～5 時
コピー	マルフォーズヒル郵便局(PM5 時まで)、タッドリー図書館(PM10 時まで)、パンパーヒースロード郵便局又はパンパーヒースロードの商店街(日曜日も営業)
ファックス	マルフォードヒル-レッドウッドエステートエージェント(Redwood Estate Agents)
公衆電話	オルダーマストンロード(01265 314700)、バーンハムロード(Burnham Rd)
病院/事故や救急治療	ロイヤルパークス、ロンドンロード、レディング (Royal Berks、London Rd、Reading)(01189 877020)
薬屋	バジェンズスーパー(Budgens Supermarket)の隣(9 時～7 時)
日曜大工用品	ビショップスウッドロード 56、タッドリー アンド マルフォーズヒル (56 Bishopswood Rd , Tadly & Mulfords Hill)
現金自動支払機	Link と RBS(オールドフォージ-ヒースエンドロード(Old Forge-Heath End Rd)) TSB (マルフォーズヒル) パークレイズ(Barclays)-マルフォーズヒル

旅行情報

レディングバス(Reading Bus)(143)	01189 594000
ハンプシャーバス(Hampshire Bus)	01256 464501
ザ ビー ライン(The Bee Line)(Bus)	01344 424938

近隣の停留所

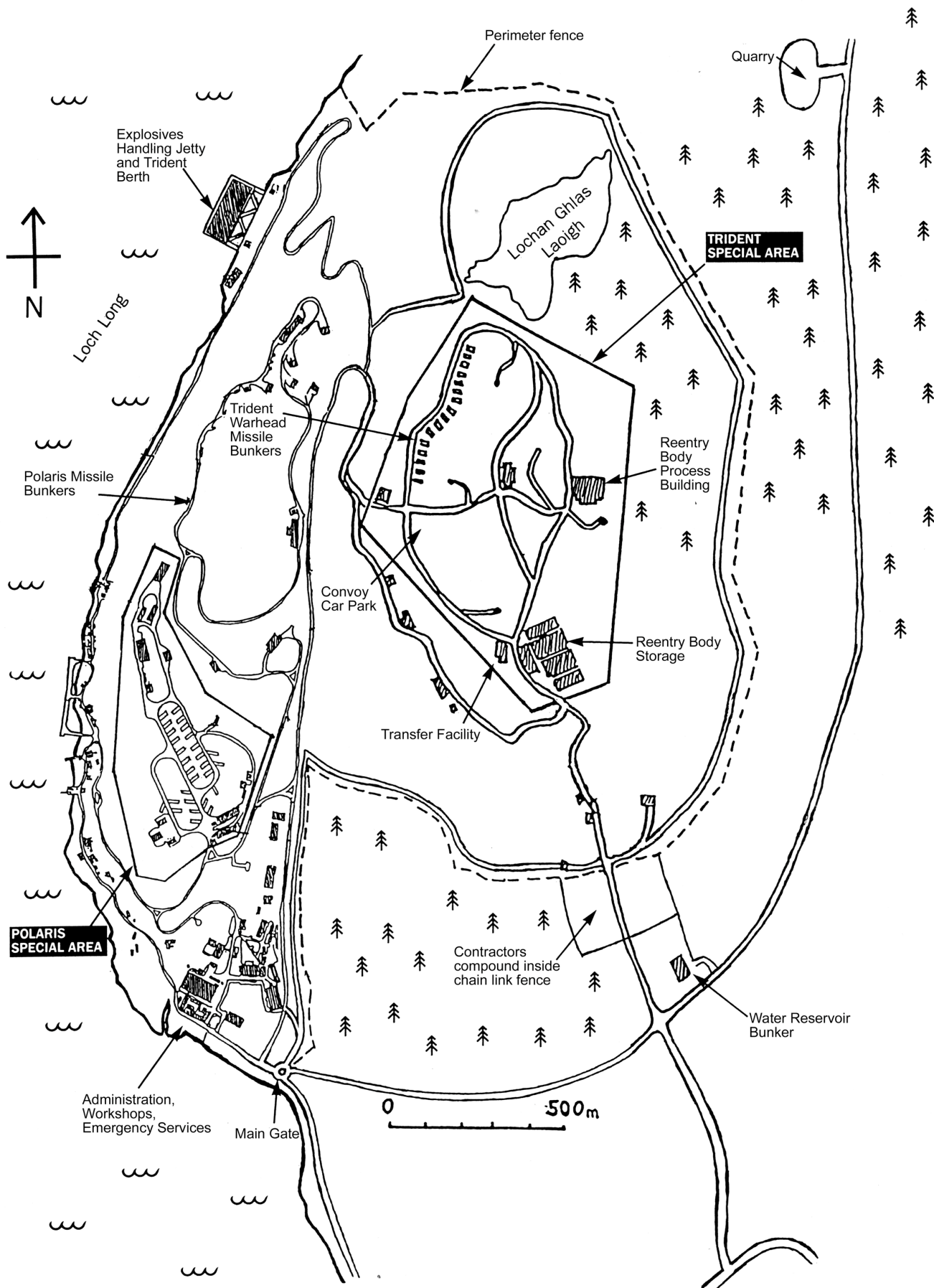
レディング駅から	フランクリンロード(Franklin Rd)	143 番のバス
ベイジングストーク(Basingstoke)駅から	ファルコン イン(Falcon Inn)	50 又は 5 1 (A) 番のバス

近隣の駅

モルティマー(Mortimer)	(10 分) 接続良
------------------	------------

英国海軍武器本部 クール

ポラリス区域とトライデント区域を示す



(図中の説明などの訳)

英国の主要なト ライデント関連 基地

ドーンリー(Dounreay)
 エウイ湖(Loch Ewe)
 ロナ(Rona)
 スキエ(Skye)
 英国空軍 キンロス
 (RAF Kinloss)
 ロシス(Rosyth)
 クールポート(Coulport)
 ファスレーン(Faslane)
 プレストウィック
 (Prestwick)
 CAD ロングタウン
 (CAD Longtown)
 アルパーメール(Albermarle)
 チャペルクロス
 (Chapelcross)
 アンソーン(Anthorn)
 セラフィールド(Sellafield)
 バロー(Barrow)
 インスキップ(Inskip)
 スプリングフィールド
 (Springfield)
 リバプール(Liverpool)
 カペンハースト(Capenhurst)
 ダービー(Derby)
 クリギオン(Criggion)
 ラグビー(Rugby)
 フォレストムーア(Forrest
 Moor)
 メンウィズヒル(Menwith
 Hill)
 ウィッターリング(Wittering)
 カーディフ(Cardiff)
 英国空軍 クルドローズ
 (RAF Culdrose)
 デボンポート(Devonport)
 バークフィールド
 (Burghfield)
 オルダーストン
 (Aldermaston)
 ノースウッド(Northwood)
 ホワイトホール(Whitehall)
 スピットヘッド(Spithead)
 サザンプトン(Southampton)

核兵器製造保管 施設 オルダ ーストン

グリーン

輸送用車両
 駐車場予定地
 ブルー
 輸送用車両
 基地
 タッドリー門
 (Tadley Gate)
 大きな管理棟
 最高責任者の司令室が
 最上階にある
 ホームオフィス
 ホームオフィス門
 (Home Office Gate)
 SEG 本部
 ファルコン門
 (Falcon Gate)
 R 区域
 ヘラルド (Herald) 原子炉跡
 地
 コンストラクション門
 (Construction Gate)
 A 区域
 核弾頭製作、
 核分裂性物質の
 取り扱い場所
 B 区域
 爆発物の研究と貯蔵
 C 区域
 化学技術
 エンジニアリング
 センター
 D 区域
 エレクトロニクスに関する研
 究施設
 測光法と写真術に関する施設
 英国軍の連絡施設
 エレクトロニクスに関する研
 究施設測光法と写真術に関す
 る施設英国軍の連絡施設
 E 区域
 コンピューターサービス
 H 区域
 訓練施設
 正門
 ファルコン門
 ボイラーハウス門
 (Boilerhouse Gate)
 北門(North Gate)
 北池区域
 中心区域
 A90,A91,その他の
 A 区域ビルの
 建設場所
 SB 区域

理論科学と実験施設
 A区域拡大図
 汚染された廃棄物の貯蔵ビル
 臨界制御
 トリチウムに関する
 作業が実施されている
 健康物理学
 制御区域
 メインブルトニウム処理ビル
 A 区域
 管理棟
 ウラン処理施設
 核弾頭材料組み立て工場
 放射性廃棄物取扱所
 ブルトニウム貯蔵所
 化学技術実験施設
 ベリリウム研究と処理工場

p 8 3 地図 核兵器製造保管 施設 バークフ ィールド

(図中に掲載)

p 8 4 地図 クライド英国海 軍潜水艦基地 (Clyde RN Submarine Base)

北門
 船体持ち上げ所
 トライデント停泊所
 ファスレーン港
 水上バリア
 警察のポート
 ハンターキラー
 潜水艦と
 軍艦の停泊所
 南門
 ファスレーン
 ピース
 キャンプ

p 8 5 地図 英国海軍武器本 部クールポ ート ポラリス区域とトライ デント区域を示す

爆発物取り扱い栈橋と
 トライデント潜水艦停
 泊所
 ロング湖
 ポラリスミサイル貯蔵

庫
 ポラリスミサイル特別
 区域
 管理棟
 作業所
 緊急サービス
 正門
 周囲フェンス
 トライデントミサイル核弾頭
 貯蔵庫
 輸送用車両駐車場
 受け入れ処理施設
 貯水池
 金網に囲まれた契約業
 者利用区域
 再突入体 (リエントリ
 ーボディ) 貯蔵庫
 再突入体 (リエントリ
 ーボディ) 処理棟
 石切場
 トライデントミサイル
 特別区域
 正門

p 8 6 地図 ファスレーンと クールポ ート

印
 警察詰め所
 潜水艦停泊所が見渡せ
 る場所
 ロング湖 (Loch Long)
 アーミーキャンプ (Army
 Camp)
 船体持ち上げ場所 (Shiplift)
 フィンガー 栈橋 (Finger
 Jetty)
 水上バリア
 南門
 ファスレーン
 ピース
 キャンプ
 ルー(Rhu)
 ゲール湖 (Gareloch)
 クライド英国海軍潜水艦基地
 グレンフルインロード (Glen
 Fruin Road)
 英国海軍武器本部クールポ
 ート
 コーブ (Cove)
 ヘレンズバーク
 (Helensburgh)